

議事録（概要）

| | | | | | | |
|---------|--|-------|---|----|-------|---|
| 会議名 | 令和5年度 第2回芦屋町環境審議会 | | | | | |
| 開催場所 | 芦屋町役場3階 31会議室 | | | | | |
| 開催日時 | 令和5年11月6日（月）14：55～17：00 | | | | | |
| 委員の出欠 | 会長 | 松本 亨 | 出 | 委員 | 香田 一之 | 出 |
| | 副会長 | 福原 光次 | 出 | 委員 | 山下 高志 | 出 |
| | 委員 | 鶴原 修 | 出 | 委員 | 堤 裕嗣 | 出 |
| | 委員 | 福島 直人 | 出 | 委員 | 森 麻由美 | 欠 |
| | 委員 | 田中 太 | 出 | 委員 | 中西 新吾 | 出 |
| 議 事 | (1) 第2次芦屋町環境基本計画について (2) その他 | | | | | |
| 合意・決定事項 | ○第2次芦屋町環境基本計画について 住民アンケート調査結果及び第2次芦屋町環境基本計画の素案について説明し、委員から意見をいただいた。今回いただいた意見を踏まえて計画の策定を進めていく。 | | | | | |

令和5年度 第2回芦屋町環境審議会 議事録

1. 松本会長挨拶

本日は第2次芦屋町環境基本計画の素案の作成状況や住民アンケート調査結果について報告が行われる。地球温暖化対策実行計画（区域施策編）についても別途策定が始まったと聞いている。委員の皆さまから本日も忌憚のないご意見をいただきたい。

2. 議題

(1) 第2次芦屋町環境基本計画について

① 住民アンケート調査結果について

第2次芦屋町環境基本計画の策定にあたって、住民の環境保全に関する意識や環境保全行動の状況等を把握することを目的に実施した住民アンケート調査の結果について、計画策定業務委託の受託者（一般財団法人九州環境管理協会）より説明を行った。

※以降、策定を進めている第2次芦屋町環境基本計画を「第2次計画」と示す。

併せて、現行計画を「第1次計画」と示す。

(意見・質問)

○環境施策の満足度と重要度に係る調査結果について

- ・満足度と重要度がともに低い環境施策について、本調査結果はあくまでも住民目線の調査結果であるため、環境施策としての意味が全くないと誤解を招かないよう、調査結果を第2次計画に示す際には注意書きを設けた方が良い。
- ・町の環境施策を項目ごとに相対評価しているが、評価点数を用いて絶対評価で分析することも必要ではないか。
- ・評価点数の算出方法の説明書きについて、本調査の回答区分に合わせて内容を修正すべき。
- ・住民参加型の取組（環境施策）とそうではない取組の間で、住民の満足度は当然異なると考えられる。住民参加型の取組だけで評価することも必要ではないか。

⇒ご意見を踏まえて、分析方法や文言の追加・修正などの対応を検討する。

○調査結果について、芦屋町としての特徴はあるのか。

⇒身近な環境について、「飲み水の水質」の満足度と重要度がともに高いことが特徴的であると捉えている。都市部以外では「空気のきれいさ」について満足度と重要度がともに高い地域は多いが、「飲み水の水質」の満足度と重要度がともに高い地域はそれほど多くない。また、「周辺の静けさ」について、満足度が低く重要度が高い分析結果となっており、航空自衛隊の芦屋基地が所在する地域の特徴が表れていると捉えている。ただし、(航空機騒音)対策として町が取り組むことができることは、管轄を踏まえると、限られているのではないか。

② 第2次芦屋町環境基本計画の素案について

第2次芦屋町環境基本計画の素案の作成状況について、計画策定業務委託の受託者（一般財団法人九州環境管理協会）より説明を行った。

（意見・質問）

○30頁から32頁「施策の実施状況と数値目標の達成状況」について

- ・施策の詳細な実施状況が読み取れない。平成25年度に策定された第1次計画で示す施策の評価は、第2次計画には記載しないのか。各施策の実施状況と評価を年度別に一覧表で整理して示すべきではないのか。
- ・指標の基準年度は平成24年度（第1次計画が策定される前年度）で設定されているものが多いが、このような設定に問題はないか。

⇒施策の実施状況は毎年環境審議会にて報告を行っている。第1次計画は平成30年度に中間見直しを行っている。第2次計画では中間見直し以降の施策の実績について評価とともに示している。指標の基準年度について、中間見直しの際に一部修正を行っている。ご意見を踏まえて内容を検討・修正する。

- ・「養成した鋳物師の数」について、令和3年度に養成（独立）した数は1人ではなく2人ではないか。
- ・「ラブアース・クリーンアップ、庁内一斉清掃参加者数」について、令和3年度の実績値は0人となっているが、イベントそのものを開催していないため、0人という表現は不適當ではないか。「－（バー）」で示すべきではないか。
- ・現状値として最新年の実績値を記載しているのか。指標によっては実績値が経年的に増減を繰り返しているものもあると思われる。そのような指標について、第2次計画ではどのように目標数値や現状値を設定するのか。
- ・数値目標の達成状況について、最新年ではなく過去に遡れば達成できている場合は「○」と示しているのか。

⇒表現の仕方について検討・修正する。

- ・「町全体の二酸化炭素総排出量」について、基準年度が平成2年度となっているが、この設定は古すぎるのではないか。

⇒第1次計画で設定されていた基準年度を示している。第2次計画では、別途策定を進めている地球温暖化対策実行計画（区域施策編）の内容に合わせて更新する。

○38頁「環境目標」の「地球環境」において、「エネルギーの合理的かつ循環的な利用を進め」との記載があるが、循環的な利用とは具体的にどのような取組を指すのか。エネルギーを循環的に利用するという表現は一般的ではないため、改善して欲しい。

⇒第1次計画から用いられている表現であり、エネルギーを町の中で徹底的に利用するという趣旨で用いられていると思われる。ご意見を踏まえ、誤解を招かないように「効率的な」という表現に改める。

○44 頁「森林や海岸などの自然の保全」における町の主な取り組み（事業）として「保安林の管理」と示されているが、町の保安林の実態として飛行場付近の松はほとんどが枯れておりクスノキに入れ替わっている。町として「松の植栽事業を実施します」と示されているが、松苗を植栽してどの程度の本数が枯れずに成長しているのか調査を行っているのか。

⇒計画策定業務委託の受託者は現地調査を行っていない。町が担当部署に確認したところ、年間 100 本程度植栽を行えば現状の保安林を維持できる想定とのことだった。植栽した中で具体的に何本枯れずに成長しているかに係るデータは持っていない。

○46 頁『『豊かな自然環境を次世代へと継承していく』ための数値目標』について、松苗は目標年度（令和 15 年度）の年度内に 1,000 本植樹する目標なのか。

⇒担当部署に確認の上、目標年度までに累計として 1,000 本植樹する目標を設定している。芦屋基地において植栽している松苗は含まれておらず、町が植栽する累計の目標数値である。目標数値について累計なのか単年度なのか分かるような表現に修正する。

○54 頁「循環型社会の形成」における町の主な取り組み（事業）として「プラスチックごみ対策の推進」と示されており、この概要の中で「容器包装プラスチックやプラスチック製品の分別回収の導入可能性を検討します」とあるが、北九州市などとともに検討するということなのか。

⇒ご指摘のとおりであり、分別回収について 1 市 4 町の組合にて提案するという趣旨で記載している。

○55 頁コラム「資源ごみ対策およびごみの分別化・減量化の推進事業」について、北九州市へのごみ処理委託費（トン当たり 2 万円）は第 2 次計画の計画期間内に変更になることを考慮して明記しないとの方針だが、お金を支払って委託している状況を住民に伝え、ごみの資源化・減量化の啓発を行うべきと考える。第 2 次計画における適当な表現を検討して欲しい。

⇒「委託料を支払い」などの表現に改めることで検討する。

○「住民 1 人あたりのごみ排出量」及び「ごみの再生利用率」の数値目標について

- ・ごみ排出量について、新型コロナウイルス感染症が拡大していた年には、家庭ごみの処理量が増えていると思われる。
- ・ごみの再生利用について、スーパーマーケットなどで回収が行われているが、新聞は販売店が回収している。
- ・民間のごみ回収等の影響で実態が計りにくい問題点があるとしても、数値目標を設定するために、どのような影響が含まれるのか第 2 次計画に明記することとして、トレンド分析を行い、データの取得可能性を踏まえて数値目標を掲げるしかない。ごみの再生利用率について、福岡市のように詳しく調査している自治体もあるが、政令市レベルでも全ての自治体が調査を行っている訳ではない状況である。

⇒ご意見を踏まえ、データの取得可能性を踏まえて数値目標を設定することで検討する。

○57 頁コラム「住民ワークショップによる公園整備」について、最近の事例に差し替えて欲しい。

⇒承知した。

○59 頁「良好な水辺空間の創出」について、基本的な取り組みとして「水辺と親しむことができる親水空間の整備を進めます」と示されている。これに対応する町の主な取り組み（事業）として「海浜公園整備」と示されているが、これが「親水空間の整備」を指しているのか。

⇒ご指摘のとおりであり、表現を修正する。

○61 頁コラム「芦屋釜とは」について、写真を今後変更するのか。最近町が買い戻した芦屋釜について紹介するのか。

⇒写真の差し替えと記載内容の変更について、担当課に確認中である。

○64 頁「省エネルギーの推進」における町の主な取り組み（事業）の中で「公用車への次世代自動車導入」と示されているが、芦屋町タウンバスも将来的には環境配慮型のバスに切り替えていくのか。

⇒ここで示す「公用車」は庁舎にある町の通常の業務で使用している車を想定して記載している。バスについて今後の見通しは現地点ではないが、将来的には導入していく必要があると考えている。

○66 頁「『気候変動に適応した脱炭素社会づくりを進める』ための数値目標」について
・各指標の現況年度と目標年度はどのような考え方で設定しているのか。

⇒「町全体の二酸化炭素排出量」は別途策定を進めている地球温暖化対策実行計画（区域施策編）で設定する年度としている。「公共施設から発生する二酸化炭素総排出量」は地球温暖化対策実行計画（事務事業編）で設定している年度を用いている。「公共施設の再生可能エネルギー設備導入件数」は脱炭素先行地域としての選定要件を踏まえて設定している。「芦屋町タウンバスの利用者数」は地域公共交通活性化協議会の目標数値を踏まえて設定している。

・「公共施設の再生可能エネルギー設備導入件数」の現状値は令和4年度で0件となっているが、3件の誤りではないか。

⇒ご指摘のとおり総合体育館、芦屋中学校、町役場庁舎の3件であり、修正する。

・「芦屋町タウンバスの利用者数」の目標数値について、設定根拠にしている地域公共交通活性化協議会では目標数値を見直そうという方針ではなかったか。

⇒確認して目標数値の設定について検討する。

・69 頁「『環境意識を高め、協働による環境づくりを進めていく』ための数値目標」における「清掃ボランティア団体数」について、団体数とは何を指しているのか。

⇒町で登録いただいている清掃ボランティアの団体数を指す。各団体に町がゴミ袋を配布しており、集まったごみは町が回収している。清掃ボランティア団体数を増やしていこうという趣旨で数値目標に設定している。

(2) その他

- ・事務局から次回の環境審議会の開催日程の調整に関する案内を行った。